

Magazine NUCL

6つの研究室、6つの本気。

Vol. 3

2026 MAY

日本大学法学部
広報誌 [NUCL Magazine]



SIX LABS,
SIX COMMITMENTS.

Magazine NUCL

Vol. 3 2026 MAY NUCL Magazine

2026年5月発行

日本大学法学部広報

通巻150号

発行：日本大学法学部企画・広報委員会



広報誌のバックナンバーは、日本大学法学部ホームページにてご覧いただけます。

<https://www.law.nihon-u.ac.jp/>

SCAN HERE



日本大学法学部
TikTok 公式アカウント

@law_nihon

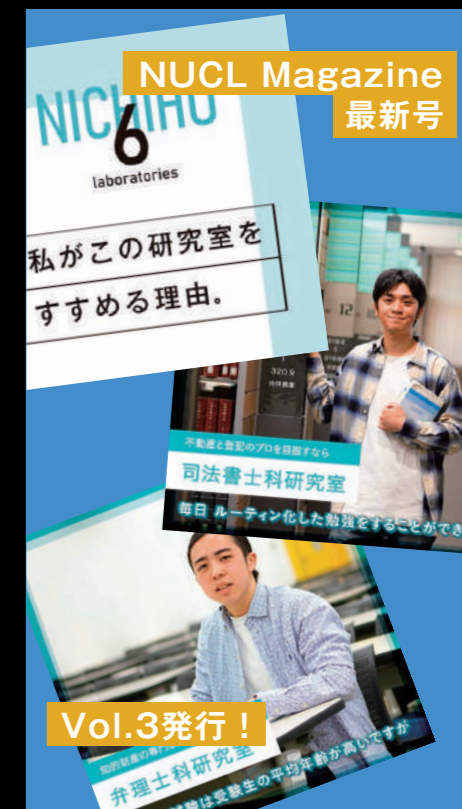


日本大学法学部
Instagram 公式アカウント

@law_nihon



「NUCL Magazine」の
スペシャルムービーを
配信中！





SIX LABS, SIX COMMITMENTS.

本気のカたちは、人それぞれ。

同じキャンパスにいても、向き合うテーマや過ごし方は大きく異なります。

本号では学生研究室を舞台に、資格取得に挑む学生たちの姿と合格や進路につながったリアルなプロセスを紹介します。

自分は何に本気になれるのか。

その答えを考えることが、あなたの次の一歩を踏み出すきっかけになるはずです。



6
つ
の
研
究
室
、
6
つ
の
本
気
。

NUCL Magazine Vol.3
2026 MAY
CONTENTS

- 01 6つの研究室、6つの本気。
- 03 私がこの研究室をすすめる理由。
- 05 合格者は何をしたのか。
- 07 私たちの勉強スイッチ。
- 09 法辞苑 ～キャンパス用語の基礎知識～
- 11 PICKUP SEMINAR
「日法のゼミ探訪」
- 12 GRADUATE INTERVIEW
「日法人 Nichiho-Jin」
- 13 NICHIGO TOPICS
- 14 EVENT SCHEDULE
編集後記

NICHIHO

6 laboratories

私がこの研究室を
すすめる理由。

難関資格を目指すなら、学生研究室に入ろう！
実際に学んでいる6人の学生が、おすすめポイントを紹介します。



来ればわかる、「人」の魅力

税理士科研究室の一番の魅力は「人」。みんなで試験問題を解き、意見を交わしながら理解を深める過程がなければ、合格できなかったと思います。業界で求められる、人とのつながりも得ることができました。研究室には自分専用の固定席やロッカーがあり、専門書籍が豊富で、コピー機も自由に使えるなど、整った環境を年間3千円で利用できるのは大きな魅力。いつも同じ場所を使うことで勉強が習慣化します。周りの人から話を聞いて「こんな税理士になりたいか」をイメージすることも大切。今後は国際課税に強い税理士を目指し、大学院に進学します。

経営法学科卒業生 平林 翼さん



#04



気づけば、一番長くいた場所だった

おそらく大学で一番長い時間を過ごしたのが、司法科研究室です。法曹を目指して司法試験に挑戦すると決めたとき、勉強の進め方や自分の立ち位置が分からないまま一歩を進めることに限界を感じて入室しました。心強かったのは、現役弁護士の先生から答案の添削指導を受けられること。裁判を傍聴する機会もあり、試験対策にとどまらず、将来を考える視点が広がっていく実感がありました。同じ夢を持つ仲間がいつも身近にいるから、不安を抱えずに済みますし、情報交換もできます。答案練習会での表彰も、モチベーションの維持に役立っています。

法律法学科曹一入卒業生 吉田 和氣さん



#01



資格取得だけが、ゴールじゃない

司法書士試験は試験科目が11科目あり、独学や学外講座だけでは理解が追いつかないこともありま。司法書士科研究室の良いところは、講師の先生方が細かい部分まで、実務の話や交えながら丁寧に教えてくれるところ。問題集を使った講義が多く、アウトプットを重視した勉強ができるのも魅力です。試験対策には大量の参考書が必要ですが、研究室の過去問集を自由に使えたり、合格した先輩に勉強法を相談できたりする環境も心強いです。暗記中心だった学習が理解重視に変わり、物事の根底にある原理をつかもうとする姿勢が習慣化しました。

経営法学科4年 多田 琉伽さん



#02



身近なきっかけから、弁理士の道へ

祖父が特許事務所を営んでいて、他界後の親戚の集まりで話を聞いたことが、弁理士に興味を持つきっかけでした。研究室は、予備校に比べて費用負担が少なく、過去問や条文などの資料もそろっているため、試験への挑戦に踏み出しやすいです。弁理士を目指す学生向けの奨学金制度もありま。弁理士は受験者の平均年齢が高い資格ですが、同年代の仲間と学べる点も魅力です。現役の弁理士の先生やOB・OGとの交流で、将来像を思い描きながら勉強できるようになり、先生の事務所でアルバイトを経験できたことも印象に残っています。

経営法学科3年 佐戸川 陸さん



#03



ここまで手厚い支援は、なかなかない

もともと公務員志望だった私は、行政科研究室への入室を前提に日法への入学を決めました。研究室では、面接対策や集団討論を通じて、実際の試験で役立つ具体的なアドバイスを受けられます。OB・OG会では、現職の公務員から話を聞いて、公務員にも多様な仕事ややりがいがあることを知り、学習のモチベーションが高まりました。研究室の室長を務めた経験からは、リーダーが全てを抱え込む必要はなく、周囲を頼り、役割を分担しながら調整することが重要だと学びました。ここまで手厚い支援を受けられる大学は、ほかにないと思います。

公共政策学科3年 篠宮 沙希さん



#05



この環境で、本気になれた

予備校と比べると、ここがどれほど恵まれた環境なのかよく分かります。専用の自習席や専門書はもちろ。エレベーターや給湯まで、設備は学内でもトップレベル。勉強色ではなく、遊びと両立している学生が多いところもポイントです。研究室ではOB・OGからのアドバイスで目標を意識できるようになり、仲間と模試の結果を共有して自分の立ち位置を確認し、何が足りないのか分析しています。法律を熟知することで、本来あるべき「法学部生」になれた気がします。将来は監査法人で経験を積み、公認登録後は企業の会計士として活躍したいです。

公共政策学科4年 細淵 信吾さん



#06



Recommended Point!

ブースで区切られた専用の自習席

Points to Passing

- 余裕を持った勉強計画を立てて実行!
- 困ったときは人に相談!
- 完璧を目指すのではなく、合格を目指す!

Interview | 02

一人じゃないから、続けられた

私は、こども家庭庁への就職が決まっています。大学選びの段階から公務員を意識していましたが、その中でも支援を必要としている全ての人に広く関わりたいと考え、国家公務員を目指すようになりました。行政科研究室には、同じ目標を持つ仲間や、公務員として活躍する先輩とつながりたいと思って入室しました。大学1年次から課外講座を受講し、本格的に試験勉強を始めてからも学内講座を中心に勉強を進めました。アルバイトを2つかけもちしながら、隙間時間を利用して集中力を高めました。合格者報告会では、試験区分や併願方法など、公務員試験のいろはを直接聞くことができました。試験の2〜3か月前から10分以上の過去問を解き、自分の実力との差に焦ることもありました。それでも一緒に頑張る友人の存在に支えられて、最後まで諦めずに勉強を続けることができました。

令和7年度国家公務員試験合格

政治経済学科卒業生 田村 咲恵さん

Saeta Tamura

合格者は何をしたのか。

SUCCESS STORIES

Student Lab

リアルな体験談

難関資格にチャレンジした先輩たちの、リアルな体験談。学生研究室での学びが、合格までの道のりにどう役立った？

Points to Passing

- 早期に勉強習慣をつけたこと!
- 質と量のバランスを意識したこと!
- 自分を信じたこと!

Interview | 01

最年少合格に、意味があると思つた

大学1年の8月に弁理士科研究室に入り、2回の受験を経て3年の秋に資格取得しました。平日昼間は大学の授業、夜は研究室の講義、土日は受験機関で勉強する毎日。最初に取り組んだのは短答式試験対策です。最大の難関なので、条文を読み込んで、人に説明できるレベルまで理解を深めました。この時期が人生で一番勉強したと思います。短答式合格後、論文式試験で一度不合格になりましたが、「暗記は前提にすぎない」と気づいて、立法趣旨や判例まで踏み込む学習に切り替えました。年末年始も朝8時から夜22時まで自習室に通い、勉強を習慣化できたことが合格につながったと思います。私は最年少合格に強いこだわりと覚悟を持って挑戦しました。大学在学中の取得は難しい資格なので、就活では「目立っていただけでした。過酷な道のりでしたが、今後の人生の大きな糧になる経験でした。」

令和7年度弁理士試験最年少合格

経営法学科4年 鈴木 沙優さん

Saya Suzuki

Points to Passing

- 良い体調とメンタルの維持!
- 睡眠時間の確保!
- 勉強時間の確保!

Interview | 03

基礎を外さなければ、勝負できる

「勉強したことがそのまま職業になる仕事がいい」と考えていたとき、司法書士という資格を知りました。学内に司法書士科研究室があると聞き、せっかくなら入ってみようと思いき、気持ちで入室しましたが、結果的にそれが大きな支えになりました。本格的な勉強は1年生の夏頃から。まずはテキストと過去問を回し、基礎固めを重視しました。自分のやり方が合っているのか不安になる時期もありましたが、研究室の懇親会で講師や先輩と話し、自分の方向性が大きく間違っていないと分かったことで迷いが消えました。学年を越えて話しやすい雰囲気や、先輩からの「お前は受かりそうだ」という一言が自信につながりました。本番直前には自習室の参考書を利用して模試や試験形式の答練に取り組み、合格をつかみました。振り返ると、良い縁に恵まれたことも大きかったと思います。

令和6年度司法書士試験合格

法律学科卒業生 山元 遙介さん

Yosuke Yamamoto

Lab Note

資格取得を応援する褒賞制度

「資格・検定・公務員試験褒賞制度」にエントリーして、挑戦した資格に合格すると、賞状と図書カードが贈られます。対象は、司法試験や弁理士、公認会計士、公務員試験など、幅広い資格・検定です。



Lab Note

資格対策、こんな選択肢も

専門学校と連携した「課外講座」を、学部の補助により低料金で受講できます。公務員試験対策をはじめ、目的に合わせて選べる講座がそろっています。





🔍 集中力は、気合だけじゃ続かない。勉強のスイッチが入る、学生たちの「勉強のお供」を調査しました。

ACTIVATE
STUDY
MODE

私たちの

勉強スイッチ。



STUDY APP

これ、使ってます！便利アプリ

勉強をちょっとラクにしてくれる、便利アプリをご紹介します。

#1 Duolingo

様々な国の言語を気軽に学ぶことができる。毎日の活動が可視化されるので習慣化しやすいのもポイント。

#2 Studyplus

勉強時間が可視化できるため、勉強のモチベーションにつながる。タスク管理にも最適！

#3 すごい時間割

時間割はもちろん、科目ごとに課題やテストの日時について把握できるスケジュール管理アプリ。

#4 ChatGPT

分からない点を答えるだけでなく、やりとりを通じて疑問も解決してくれる便利な AI サービス！



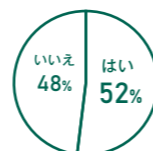
Question

やる気チャージ！最強おやつアンケート

勉強中のおやつ事情を、アンケートで聞いてみました。

Q 勉強中におやつを食べますか？

半数以上の日法生が勉強中におやつを食べていることが分かりました！



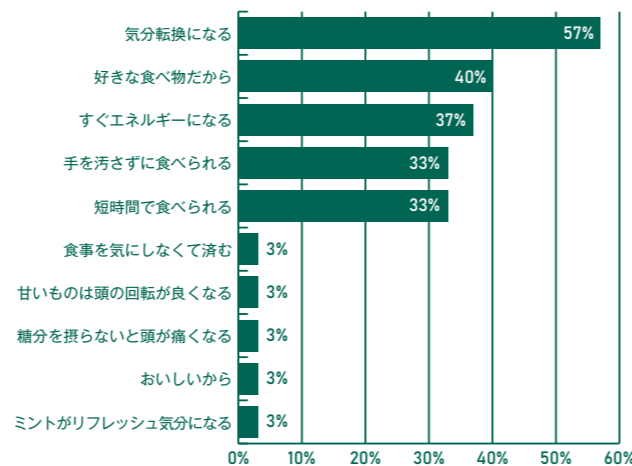
Q 勉強中のおやつは何を食べますか？ (複数回答)

おやつとしては手軽で適度に糖分が摂れる食べ物が好まれているようです。

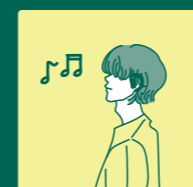
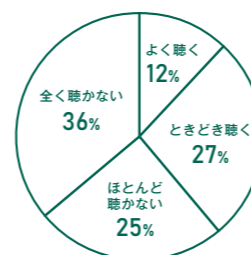
1位	チョコレート	60%
2位	ラムネ	50%
3位	クッキー	37%
4位	飴	20%
5位	スナック菓子・パン・ガム	(同率) 10%

Q そのおやつを選んだ理由を教えてください

勉強スイッチが入るおやつが最強！



Q 勉強中に音楽を聴きますか？



公開プレイリスト

ゾーンに入る！超集中音楽

勉強モードに入るために、聴いている曲は何ですか？



タイトル	アーティスト名	コメント
------	---------	------

1	雀ノ欠伸	Saucy Dog	余裕を持って勉強を始めようという気持ちになる
2	Beautiful Life	Now United	踊りたくなるような曲で目が覚めるから
3	Don't Look Back in Anger	Oasis	英語なので歌詞が気にならず集中できる
4	ガンバラナイけどいいでしょう	吉田拓郎	ポジティブな歌で励まされるから
5	puzzule	清水翔太	歌詞がとても良く、勉強のモチベーションが上がる
6	Lemon	米津玄師	米津の曲を聴くと気持ちが落ち着いて集中できる
7	カノン	パッヘルベル	穏やかな曲調のため勉強のストレスが軽減される

日法の学生を対象にポータルサイトを通じてアンケートを実施 (調査期間：2026年1月19日～2月15日)



法辞苑

Hoji-en

あ

あいつーしー【EUI International Education Center】の略。2号館の1階にある留学について相談できるブース。定期的に留学生が母国語で出身国についての紹介をするミニ留学生フェアなどを開催している。



えんとりーしーと【エントリーシート】企業の採用試験にエントリーする際に提出するもの。ESとも。大学のゼミ入室試験でも、ESの提出を求められる場合がある。

おーびーく【ODAC】Online Public Access Catalogの略。図書館の蔵書を検索できる目録システムのこと。法学部図書館に収蔵されている約43万冊の中から目的の本を探ることができる。

おおみやきやんばす【大宮キャンパス】埼玉県さいたま市見沼区にある法学部のキャンパス。体育スポーツ実習Cが開講されている。

しらばす【シラバス】各授業科目の授業計画のこと。講義内容・到達目標・成績評価方法などが明示されており、学生が講義の履修を決める際の資料となる。

ぜみ【ゼミ】ゼミナールの略。3年生・4年生の2年間を通して学ぶ専門演習科目。日法では、2年生の11月にゼミの入室試験が実施されている。

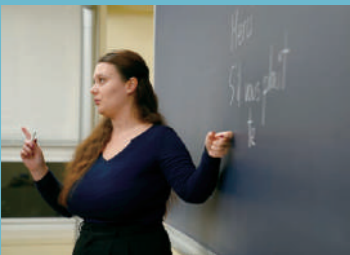
せんたくひつしゅう【選択必修】卒業に必要な単位として、指定された科目群の中から決められた単位数以上を必ず修得しなければならない科目のこと。

そうごりしゅう【相互履修】法学部以外の他学部の授業を受講できる制度のこと。一定の枠はあるものの、修得した単位は卒業に必要な単位として算入することができる。

そつろん【卒論】卒業論文の略。所属するゼミにおいて、大学での学びの集大成として執筆する学術論文のこと。

た

だいにがいこくご【第二外国語】二つ目に学修する外国語の意(多くの場合、二つ目は英語。二外とも。カリキュラムに照らして選択必修外国語(ドイツ語・フランス語・中国語)のことを指すことが通例。なお、カリキュラム上ではスペイン語・韓国語・ロシア語は随意外国語と呼ばれる。



おちる／おとす【落ちる／落とす】D評価やE評価によって単位を修得できなかった状態のこと。自分の意思で単位修得を諦めた場合は「切る」とも。

おにたん【鬼単】授業内容が難しく単位の修得が困難だと認識されている科目のこと。エグ単とも。↓楽単。

おふいすあわー【オフィスアワー】学生からの相談や質問に応じるため、教員が研究室に待機している時間帯のこと。各教員のオフィスアワーはシラバスで確認することができる。

か

かがいこうざ【課外講座】カリキュラム上の正課の授業とは異なり、資格取得や公務員試験対策などを目的とした特別なプログラムのこと。

かくしよく【学食】本館地下1階の学生食堂のこと。2026年度の後期からは3号館にも新設される予定。

が

がくほ【学ホ】学生ホールの略。本館・2号館・10号館などに設けられている休憩・歓談エリアのこと。とくに本館1階のホールを指すことが多い。本館1階の学生ホールには、事務局やゼミナールからの情報が掲出される掲示板が設置されている。



がくぶようらん【学部要覧】日法における学修と学生生活に係る手引き。卒業に必要な修得単位数など、学上の諸規定を確認するうえでも必須のガイドブック。

たんい【単位】大学における学修量を測るために数値化した基準。個々の授業科目ごとに設定された単位を積み重ねていき、修得した単位が卒業要件を満たすことにより修了し、学位が授与される。

な

にほんごこうざ【日本語講座】日大への留学生が日本語を学ぶ講座。日本人ボランティアを毎学期募集しており、留学生の日本語学習のサポートをしている。留学生だけでなく他学部生とも交流でき、とくに留学に興味がある学生におすすめ。

は

ひつしゅう【必修】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目のこと。

ふるたん【フル単】一つの学期内に履修登録できる上限の単位を修得すること。もしくは、上限の単位数分の科目を履修登録すること。

ほこう【補講】休講となった分を補う授業のこと。学事日程上の補講期間に行われるほか、任意に実施される場合もある。↓休講。

ま

めでいあきよういくせんたー【メディア教育センター】図書館の2階にあるパソコンや印刷機が設置されている施設。レポートの作成やレジュメの印刷に利用できる。ちなみに、法学部生は年間500枚無料で印刷可能。

ら

らーにんぐこもんず【ラーニング commons】図書館7階にある話しながら勉強できるスペース。話し合いや共同作業に適している。ソファがふかふかで座り心地が良い。

かりきゆらむ【カリキュラム】大学における教育課程のこと。日法の各学科・領域のカリキュラムは「学部要覧」で確認することができる。

きゆうこう【休校】学事日程上の休みのこと。台風や大雪などによって臨時休校の措置がとられることもある。

きゆうこう【休講】授業実施期間中に担当教員の都合によって講義が休みになること。↓補講。

きよつじゆ【教授】大学教員の職階の一つ。大学の先生のことを一括りに教授と呼びがちだが、職階には准教授・講師・助教などもあり、教授とは限らないので要注意。

こじんえつらんぶーす【個人閲覧ブース】図書館の3階から6階にそれぞれ8つずつある個人で作業に集中したいときに利用できるブース。パソコンや印刷機がある。図書館1階の利用カウンターで手続きができる。

ざ

ざーくる【サークル】共通の目的を持って自主的に活動する学生団体のこと。日法では登録年数や部員数の要件によって、公認サークルと準公認サークルに分かれている。

ざいり【再履】再履修のこと。単位を落としてしまった科目を、あらためて履修し直すこと。

じーびーえー【GPA】Grade Point Averageの略。授業ごとの成績評価に、それぞれ定められた係数を付与して、1単位あたりの平均値を算出した値。

じげん【時限】時間割上の1コマを指す時間区分。日法では1コマ90分間の授業を実施している。

しゆつせきひよう【出席票】出席を証明するために提出する紙のこと。出席カードとも。



らくたん【楽単】授業が「楽しい」もしくは単位の修得が「楽勝だ」と認識されている科目のこと。ただし、「楽しい」「楽勝」というのは主観的なもののため、自分が実際にそう感じるとは限らないので注意が必要。↓鬼単。

らくたん【楽単】単位を落とすこと。↓落ちる／落とす。

りあへ【リアペ】リアクションペーパーの略。授業内容に関する感想などを記入して提出する用紙のこと。出席票の代わりとしても用いられる。

りしゅうとうろく【履修登録】学期ごとに自分が受講する科目を登録する手続きのこと。履修登録を忘れると、授業に出て試験を受けたとしても単位を修得することはできない。

れじゆめ【レジュメ】授業で配布される資料や、ゼミなどの発表の際に作成する資料のこと。

れすぽん【レスポン】出席管理アプリのこと。授業内でのクイズなどにも使用される。

れぽーと【レポート】客観的な根拠に基づいて論理的に自分の見解をまとめた文章のこと。筆記試験を行わない授業の場合、成績評価のためにレポートの提出が求められることが多い。

日法のゼミ探訪

SEMINAR REPORT Vol.03

約100のゼミナールを有する
日法のゼミを覗いてみよう!

Vol.03

山口達男ゼミ

(メディア・コミュニケーション論ゼミナール)

学科にとらわれず、自分の興味のあるテーマに合わせて選択できる日法のゼミ。今回は、新聞学科の山口達男専任講師が指導教員を務めるゼミの活動内容をご紹介します。

研究テーマ

「情報社会」の諸問題を考えていく



日常を広い視野で見据え、自分なりの「生きる構え方」を確立する。

山口ゼミでは、最新のトレンドや流行を題材に、現代のメディアや情報社会を考察していきます。ディスカッション中、世間話や雑談に脱線することも多く、「おしゃべり」な雰囲気が特徴。学生の関心から研究の糸口を見つけることで、学修の楽しさを実感してもらいたい、という山口先生の狙いです。2025年度のグループ研究(3年次ゼミ)では「ラブブ」を共通テーマに、「かわいい」という概念や、グッズを所有することの意味を分析しました。このほかにもVTuberやディズニーキャスト、マンガの台詞、結婚観と扱ってきたテーマは多種多様。特定のジャンルに偏る

ことなく、敏感なアンテナを張り、自分の経験や身近な出来事を社会と結びつけて多角的に考える姿勢が重要です。そのため、SNSのおすすめコンテンツを眺めるだけで満足してしまう学生は、苦戦するかもしれません。4年次は春学期に研究計画を立て、夏以降は論文執筆に集中します。ゼミは大学4年間の学びを総動員し、目に見える成果として残す場。コスバ・タイバばかりでは、日常に対する異なる見方や、自分だけの武器に出会うことができません。「回り道」でたくさんの発見をしながら、自分のペースで学生生活を楽しみたい人にこそ、所属してほしいゼミです。



開講したばかりの新しいゼミで、2025年度のゼミ生は7名。2026年度は11名が入室予定です。山口ゼミでは、懇親会や宿舎・SNS担当など役割分担を設け、学生主体で運営しています。夏のゼミ合宿では、討論後にBBQを楽しみ、翌朝は先生特製の焼きそばを囲む場面も。学びと遊びが自然に混ざり合う時間が、このゼミらしさです。

GRADUATE INTERVIEW

日法人

No. 03

PROFILE

高橋 知更さん

たかはし・ちさら / 2019年、経営法学卒業。中村進ゼミ。株式会社阪急交通社 メディア営業部 所属。



卒業生インタビューはWebでも公開中

自分の目で見て、感じた経験が、
将来を考える軸になった。

「今だからできることは何だろう」と考えることも大切ですが、「自分は何をしたいのか」「どこへ行きたいのか」に素直になつてほしいと思います。やりたいことに挑戦し行きたい場所へ行く経験は、必ず将来の自分の力になります。

旅行好きの私は大学時代、世界7カ国を訪問しました。今はインターネットで多くの情報を得られる時代ですが、「実際にその場に行く」というのはやはり特別です。価値観が大きく揺さぶられたことで、就職先として旅行会社に興味を持つようになったりました。

阪急交通社へ入社を決めた理由も、自分の目で見て、肌で感じた空気感でした。現在はメディア営業部でツアーの企画・造成・販売を担当しています。「自分が行きたい」と思えるツアーを大切にしています。自分の旅の記憶や体感が、そのまま仕事の引き出しになっています。

大学では国際私法を学ぶゼミに所属し、「飛行機の上で事故が起きた場合、どの国の法律が適用されるのか」といったテーマを研究しました。条文を覚えるだけでなく、背景や当事者の立場を踏まえて法をどう解釈するかを学びました。物事を一方向だけでなく、多角的に考える力が身についたと感じています。

MY MEMORIES



母と一緒にポージランドへ10日間旅行し、アウシュヴィッツ強制収容所を見学しました。実際にその場に立つたとき、言葉では表しきれない空気の重さや静けさに圧倒されました。歴史の悲劇を「遠い過去の出来事」ではなく、「二度と繰り返してはならない現実」として強く心に刻むきっかけとなり、人の尊厳や平和の大切さについて深く考えるようになりました。この経験は、旅の意味を見つめ直す転機になり、今も自分の価値観の根幹となっています。

